

●教科書の穴埋め（教科書を見ればできます。）

序 人類の歴史の始まり（教科書10～11ページ）

・人類の進化

人類の歴史は少なくとも今からおよそ [] 万年前までさかのぼる。[] に生息していた人類の祖先となるグループが、直立して二足で歩くといった、他の類人猿と区別される特徴を発達させていった（[]）。やがて、人類は200万～150万年前にはアフリカ大陸から出て、ユーラシア大陸にも広がった。彼らは、[] と簡単な [] をもちい、[] をおこなったり草や木の実を [] したりして、食物をえていた（[]）。

およそ20万年前に、現生人類の直接の祖先となる人々（[]）が、あらたにアフリカ大陸に出現し、その後地球上の各地に広がった。彼らは進化した石器、骨や角を加工したさまざまな道具をもちい、大型動物や鳥・魚をも食料とするようになった。装身具や遺体の丁寧な [] にみられるように、それ以前の人類にくらべると、美意識や精神生活が大きく変化した。1万7000～8000年前のものとしてされる南フランスのラスコーの [] は、この絵の作者たちが現代とそれほどかわらない芸術感覚をもっていたことを示している。

現生人類は4万年前までにオーストラリアやニューギニアに達し、[] を使ってその東の島々にもわたった。また、1万3000年前ころまでには南北アメリカ大陸にも住み着いた。地球上の主要な大陸に広がった人類は、やがて西アジア・中国・南北アメリカ大陸などで農作物を栽培し、[] を飼育して、食料を生産するようになった。西アジアで農耕がはじまったのは今から [] 万年ほど前のことである。中国では9500年前、南北アメリカ大陸では5500年前のこととされている。[] や牧畜が開始され、定住生活をはじめたことで、人類の歴史は新しい段階にはいった。

・文明の誕生

農耕をはじめた当初、人類は [] のほとりに住んで農耕や牧畜に必要な水をえていた。人々は集落をつくり、協力して治水や大規模な農作業をおこなうようになった。治水事業の指導者として王が生まれ、彼らは農民から税を徴収してしばしば大きな富を手に入れた。王は神意を占う神官であることが多かった。洗練された石器・土器や青銅器・織物が使われ、[] が考案され、人々の暮らしはしだいに多彩で豊かなものとなった。[] の誕生である。

このような文明は、まず [] で誕生し、ついで東アジアや南アジア・南北アメリカ大陸にもうまれた。人々の生活は各地域の自然環境にあわせて発展し、やがて各地に特色あるひとまとまりの地域世界が形づくられた。また、これらの地域世界の政治・経済や文化の影響は、しだいにヨーロッパや東南アジアのような周辺地域にもおよび、そこにもおのおのの風土にあった地域世界が成立した。

●教科書の穴埋め（教科書を見ればできます。）

第1章 世界の諸文明

1、東アジア世界

●中国文明の誕生（教科書14ページ）

東アジアでは前 [] 年ころまでに、[] 流域でアワ・キビ、[] 流域でイネの栽培を中心とする農耕文明がうまれた。農耕民たちは集落に集住し、その集落同士の争いから城壁でかこまれた城郭都市が発展した。そうした大小の城郭都市はやがて連合し、前16世紀ころ、華北において []（商）王朝をうみだした。城郭都市の連合体である殷が直接支配する地域は限られていたが、祭祀にもちいられた殷のすぐれた [] は中国各地に普及して影響をあたえ、国事を決める占いに使用された [] は漢字の原型となった。

前11世紀ころ、渭水盆地におこった [] は殷を倒し、王の一族や有力な臣下を世襲の [] として各地においた。周は諸侯たちには忠誠を誓わせ、そのうえで土地と農民の支配を完全にまかせる [] によって統治した。しかし、諸侯はしだいに国として自立し、多くの国がたがいに争う分裂期にはいった（ [] ）。各国は富国強兵策を推進し、中央集権化をすすめた。同時に、広く有能な人材を求めたことから多くの学者が登場し、儒家・道家・法家などの多様な思想がうまれた（ [] ）。この時代は、 [] の登場で農業の生産力が増したほか、商工業や物資の流通もさかんになり、都市も発展し、各地で固有の形をした貨幣も鑄造してもちえられるようになった。

●秦・漢時代（教科書15ページ）

前221年、中国を統一した [] 王の政は、 [] を称し（ [] ）、封建制にかわる [] を全国に施行し、皇帝が任命した官僚を派遣して各地を統治する中央集権の政治をおしすすめた。また、法治主義を徹底し、 [] ・貨幣・文字を統一した。しかし急激な改革と [] 建設などの大規模な土木工事や対外戦争による大きな負担から、兵士や農民が各地で反乱をおこし、始皇帝の死後まもなく秦はほろんだ。

秦末の覇権争いに勝った農民出身の []（高祖）が前202年にひらいた [] 王朝（前漢）では、当初に施行した [] によって国内に諸王の反乱が生じたものの、やがてこれを平定した。そして第7代の [] のころには秦と同じように皇帝が全土を直接支配する体制を実現し、官学化した []（儒教）の統治原理によって、多くの官僚をもちいる皇帝中心の政治体制の基礎がきずかれた。武帝は積極的に外征をすすめ、北方にいる騎馬遊牧民の [] をしりぞけて広大な領土を形成し、西域や朝鮮半島・ベトナム北部に影響をおよぼした。しかし、武帝の積極政策は財政難をまねき、皇后の親族（ [] ）や皇帝の側近である [] による政治介入で混乱するなかで、外戚の [] によって前漢はほろぼされ、 [] がたてられた。

これに対し、豪族をひきいて新をほろぼした [] は [] として即位し、 [] をたて、皇帝を中心とする体制が進展した。しかし、2世紀になると、北方の諸民族の圧力が増したうえ、国内では豪族勢力と宦官・外戚の争いが激しくなり、 [] をきっかけに各地に軍事

●教科書の穴埋め（教科書を見ればできます。）

勢力が割拠し、後漢は滅亡した。

●北方民族の侵入と隋・唐の統一（教科書16ページ）

漢にかわって220年に〔 〕が成立すると、中国は魏・蜀・呉のならびたつ三国時代ではじまる〔 〕と総称される分裂の時代となった。北方民族の侵入が続くなか、鮮卑のたてた〔 〕が華北を統一して（〔 〕）、江南の漢人諸王朝（〔 〕）と対立した。北朝と南朝の対立は北朝から出た〔 〕が国内を統一して終止符をうち、つづく唐にうけつがれた。中国化政策をおしすすめた北魏が施行した〔 〕は北朝をへて隋・唐に引きつがれた。南朝によって江南地方の開発もすすみ、仏教や道教の発展、絵画や書道などの新しい文化が発達し、北方民族にも広がった。こうして皇帝を頂点におく中国独特の政治体制のもと、中国と北方周辺域との一体化が大きく進展した。

隋では初代皇帝の文帝が官僚の登用資格試験である〔 〕を本格的に導入し、第2代の〔 〕は華北と江南を結ぶ〔 〕を完成させて南北の一体化をすすめたが、大規模な公共工事の負担や高句麗遠征の失敗から各地で反乱がおこり、隋は短期間でほろんだ。

隋を倒した唐は第2代の〔 〕（李世民）の時代に中国統一を完成させて繁栄期をむかえた。刑法としての〔 〕、行政法としての〔 〕を制定し、三省六部を中心とする中央の官僚制や科挙を整備し、税制（〔 〕）や軍事制度（〔 〕）を確立して政治体制を強化した。しかし、8世紀なかばの〔 〕の結果、各地で〔 〕が割拠し、唐の体制も大きく転換をせまられていった。

●東アジア世界の形成（教科書17ページ）

朝鮮半島をつうじてはやくから中国文化の影響を受けていた日本については、3世紀ころ、〔 〕が三国の魏に使節を派遣したことが中国の記録に残されている。4世紀にはいつてヤマト政権による統一がすすんだ日本は、7世紀から〔 〕や〔 〕を中国に派遣し、その文化や制度を学んで国づくりをすすめた。

朝鮮では4世紀のなかばから〔 〕・新羅・百済がならびたつ三国時代になったが、7世紀後半、新羅が唐と結んで半島を統一した。〔 〕では首都慶州を中心に仏教文化が花ひらいた。また、高句麗の子孫がつくった中国東北地方の渤海、チベット（吐蕃）、雲南（南詔）なども中国文化の強い影響をうけつつも独自の国家を形成した。

このように中国の周辺諸地域における国家形成がすすむなかで、それぞれの諸国が中国の王朝に〔 〕したり、あるいは中国から〔 〕によって爵位・官職を与えられるなど、中国を中心とする朝貢・冊封関係がつくりあげられた。こうした朝貢・冊封関係は、19世紀にいたるまで東アジアの国際秩序を形成するための重要なシステムとなった。

唐は、充実した集権国家機構と豊かな国力で四方に遠征し、漢の領域をはるかにしのぐ大帝国を形成した。唐の勢力は一時、東は中国東北地方から朝鮮、西は中央アジア東部、北はモンゴル、南はベトナムと広範囲におよんだ。内陸ルートや南方海上ルートによる交易の進展と諸外国との活発な交流もあり、独自の国際文化を開花させた唐の文化は周辺地域に強い影響をあたえ、広大な東アジア文化圏の中心に

●教科書の穴埋め（教科書を見ればできます。）

なった。

●東アジア世界の変容（教科書18～19ページ）

10世紀初めの唐の滅亡は、それまで政治制度や文化をとりいていた周辺諸国にも変動をもたらした。日本では遣唐使の派遣を停止した後、しだいに〔 〕が広まった。朝鮮では10世紀前半、〔 〕が建国されて新羅・渤海はほろび、雲南では南詔にかわって大理が生まれ、ベトナムも自立へと向かった。

10世紀以後、華北では約50年のあいだ五つの王朝が交替し、華中・華南にも10あまりの国が興亡した（〔 〕）。この時代、武力をにぎった節度使が国を動かし、貴族にかわって広大な土地を所有していた地主が社会的な影響力をもつようになった。

960年、節度使であった〔 〕がこの混乱をおさめて〔 〕（〔 〕）を建国し、開封を都とした。宋は武人にかわって文官を重用し、科挙制度を改革して中央集権をすすめた。

宋の時代は地主が大きな力をもっていたが、彼らは科挙をとおして官僚（〔 〕）となり、特権をえて独特な文化を形成した。開封などの都市ではそれまでの各街区をかこむ壁がなくなり、商店が大通りに面して営業するなど、商業への規制もゆるやかになり、商人の活動は活発化した。このころから海上交易にも中国商人が本格的に進出するようになり、東アジア世界の一体化がさらに広がることになった。

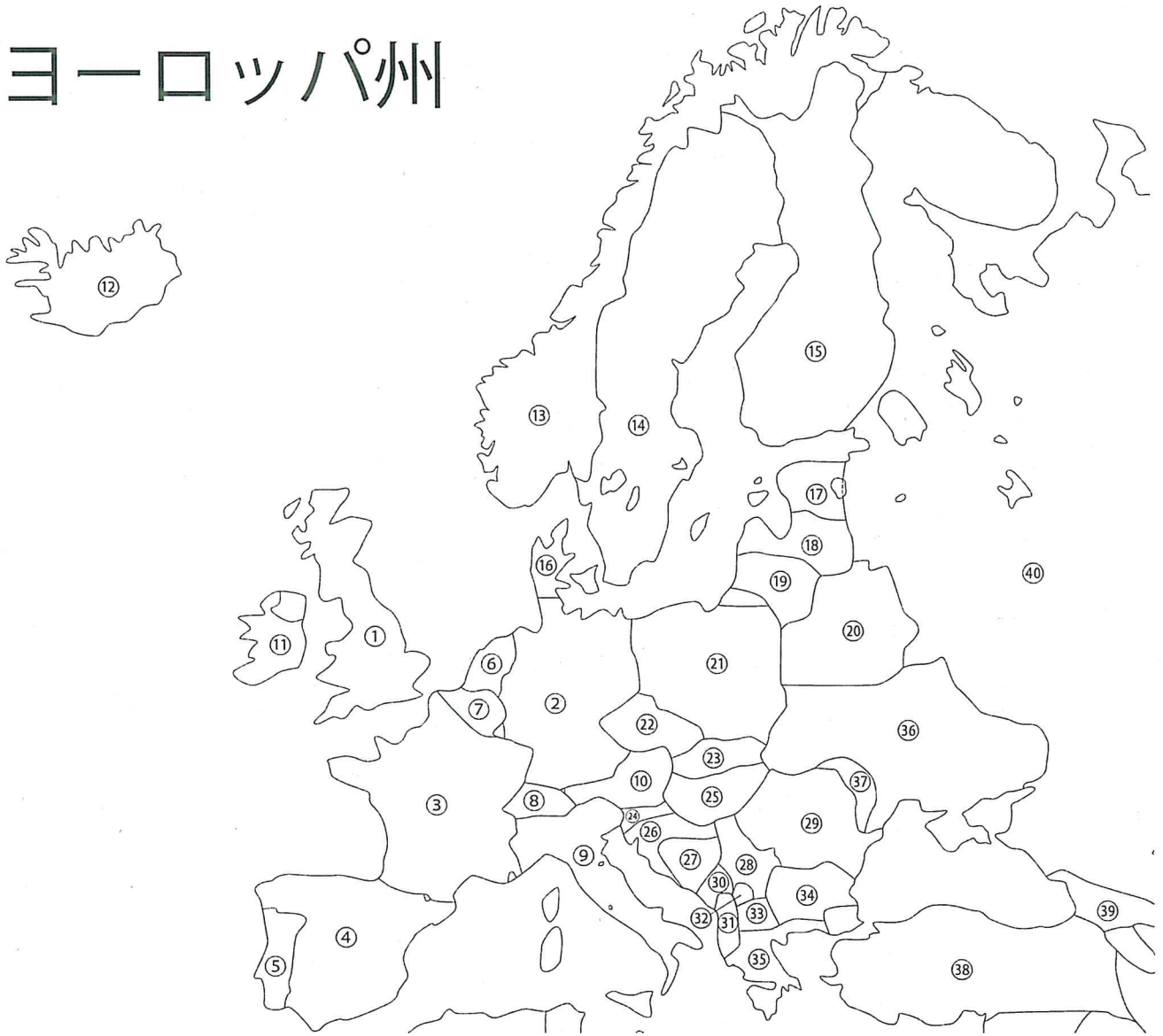
●北方民族と中国との一体化（教科書19ページ）

中国の北方では契丹族の〔 〕が登場して渤海をほろぼし、さらに華北の一部を占領した。西北方面ではチベット系の〔 〕が生まれ西域の交易路をおさえた。12世紀には東北地方から女真族の〔 〕がおこって、遼をほろぼした後、宋も破って華北を支配した。

これらの国は宋の官僚制度や文化をとりいれる一方で、独自の文字をつくるなど、民族的な自覚を高めた。これらの国に圧迫された宋は、毎年銀や絹をおくことで和平をはかったが、12世紀前半、金に敗れ、江南にのがれて国家を再建し（〔 〕）、中国を二分する態勢がかたまった。南宋では儒学分野で朱子学がはじまり、江南の開発が進展するとともに、海上交易もさかんになり、中国商人は東南アジア方面に進出した。

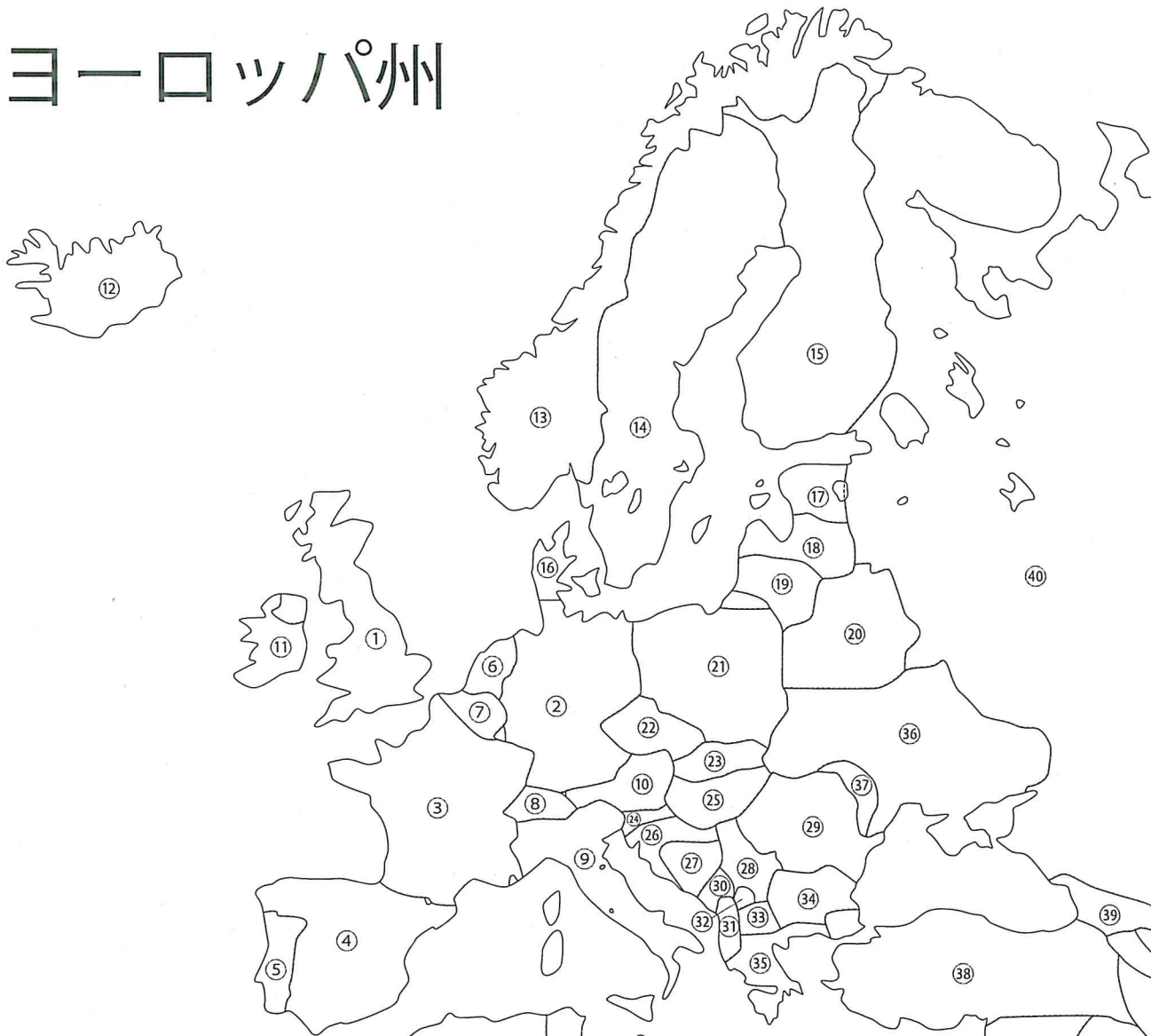
13世紀になるとモンゴル高原を統一した〔 〕が大征服活動を開始し、〔 〕をつくりあげた。その後、後継者争いを制してハン（部族統合者の称号）となった〔 〕のたてた〔 〕は、南宋をほろぼし、万里の長城以北におこった北方民族の国としてはじめて中国を統一し、モンゴル系の人々が中国の皇帝を名乗って中国本土を支配するようになった。こうして北アジアと中国との一体化が急速に進展することになった。

ヨーロッパ州



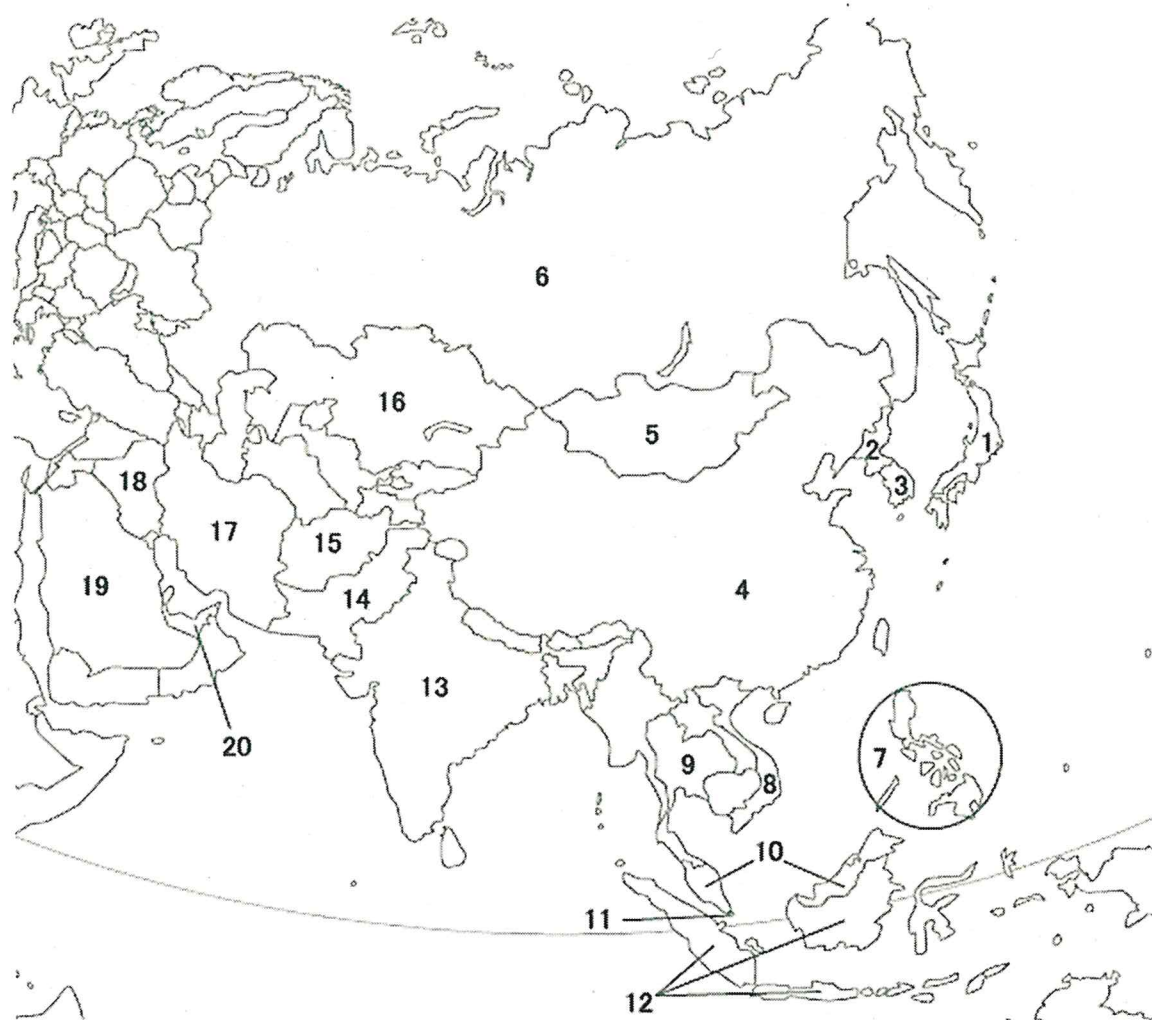
| | 国名 | 首都名 | | 国名 | 首都名 | | 国名 | 首都名 |
|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|
| 1 | | | 16 | | | 31 | | |
| 2 | | | 17 | | | 32 | | |
| 3 | | | 18 | | | 33 | | |
| 4 | | | 19 | | | 34 | | |
| 5 | | | 20 | | | 35 | | |
| 6 | | | 21 | | | 36 | | |
| 7 | | | 22 | | | 37 | | |
| 8 | | | 23 | | | 38 | | |
| 9 | | | 24 | | | 39 | | |
| 10 | | | 25 | | | 40 | | |
| 11 | | | 26 | | | | | |
| 12 | | | 27 | | | | | |
| 13 | | | 28 | | | | | |
| 14 | | | 29 | | | | | |
| 15 | | | 30 | | | | | |

ヨーロッパ州



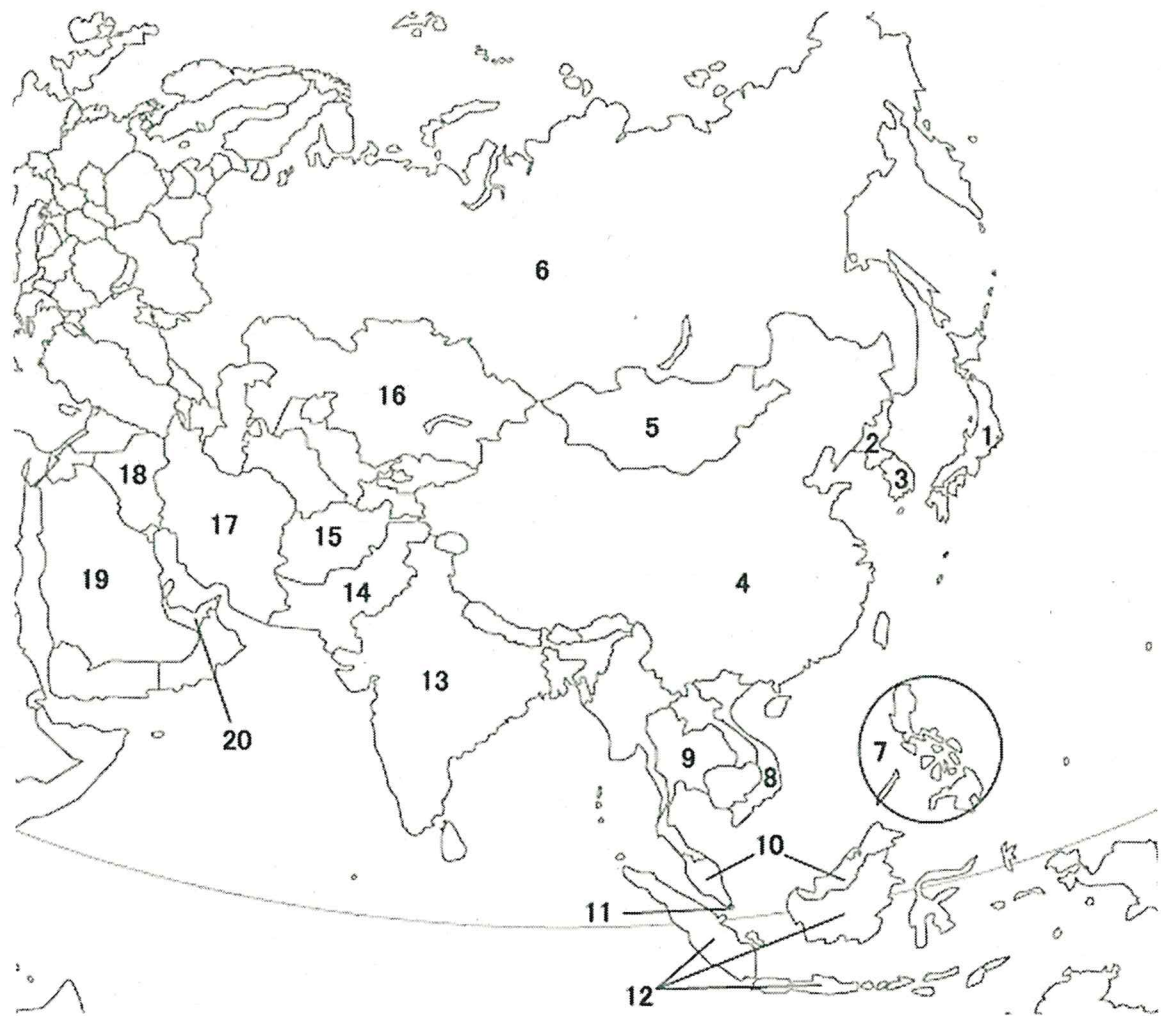
| | 国名 | 首都名 | | 国名 | 首都名 | | 国名 | 首都名 |
|----|--------|---------|----|-------------|---------|----|-------|---------|
| 1 | イギリス | ロンドン | 16 | デンマーク | コペンハーゲン | 31 | アルバニア | ティラーナ |
| 2 | ドイツ | ベルリン | 17 | エストニア | タリン | 32 | コソボ | プリシュティナ |
| 3 | フランス | パリ | 18 | ラトビア | リガ | 33 | マケドニア | スコピエ |
| 4 | スペイン | マドリード | 19 | リトアニア | ビリニュス | 34 | ブルガリア | ソフィア |
| 5 | ポルトガル | リスボン | 20 | ベラルーシ | ミンスク | 35 | ギリシャ | アテネ |
| 6 | オランダ | アムステルダム | 21 | ポーランド | ワルシャワ | 36 | ウクライナ | キエフ |
| 7 | ベルギー | ブリュッセル | 22 | チェコ | プラハ | 37 | モルドバ | キシナウ |
| 8 | スイス | ベルン | 23 | スロバキア | ブラチスラバ | 38 | トルコ | アンカラ |
| 9 | イタリア | ローマ | 24 | スロベニア | リュブリャナ | 39 | ジョージア | トビリシ |
| 10 | オーストリア | ウィーン | 25 | ハンガリー | ブダペスト | 40 | ロシア | モスクワ |
| 11 | アイルランド | ダブリン | 26 | クロアチア | ザグレブ | | | |
| 12 | アイスランド | レイキャビク | 27 | ボスニアヘルツェゴビナ | サラエボ | | | |
| 13 | ノルウェー | オスロ | 28 | セルビア | ベルモパン | | | |
| 14 | スウェーデン | ストックホルム | 29 | ルーマニア | ブカレスト | | | |
| 15 | フィンランド | ヘルシンキ | 30 | モンテネグロ | ポドゴリツァ | | | |

アジア地域



| | 国名 | 首都 | | 国名 | 首都 |
|----|----|----|----|----|----|
| 1 | | | 11 | | |
| 2 | | | 12 | | |
| 3 | | | 13 | | |
| 4 | | | 14 | | |
| 5 | | | 15 | | |
| 6 | | | 16 | | |
| 7 | | | 17 | | |
| 8 | | | 18 | | |
| 9 | | | 19 | | |
| 10 | | | 20 | | |

アジア地域



| | 国名 | 首都 | | 国名 | 首都 |
|----|-------------|----------|----|----------|---------|
| 1 | 日本 | 東京 | 11 | シンガポール | シンガポール |
| 2 | 朝鮮民主主義人民共和国 | ピョンヤン | 12 | インドネシア | ジャカルタ |
| 3 | 大韓民国 | ソウル | 13 | インド | デリー |
| 4 | 中華人民共和国 | 北京(ペキン) | 14 | パキスタン | イスラマバード |
| 5 | モンゴル | ウランバートル | 15 | アフガニスタン | カブール |
| 6 | ロシア連邦 | モスクワ | 16 | カザフスタン | ヌルスルタン |
| 7 | フィリピン | マニラ | 17 | イラン | テヘラン |
| 8 | ベトナム | ハノイ | 18 | イラク | バグダッド |
| 9 | タイ | バンコク | 19 | サウジアラビア | リヤド |
| 10 | マレーシア | クアラルンプール | 20 | アラブ首長国連邦 | アブダビ |